

事業名称	地域で取り組む国際理解・国際交流 ～外国にルーツを持つ子供達を核とする多文化共生の地域づくり～
団体名	姫コアネット5
協働の相手方	文化国際課（国際交流センター）

目的	姫路市にはベトナムなど外国にルーツを持つ子供達が多く在住している。中には日本の文化や習慣、人間関係に溶け込めず孤立する家庭がある。当会が彼らの潜在する不安や悩みの真相を知り、その解決に向けて内面に踏み込んだ支援の方策を見出し、実践することが重要である。そこで、国際交流・国際理解にとどまらず、お互いの文化やアイデンティティを尊重する人と人とのつながりを大切に、身近な国際社会を地域の豊かさに転換していく「仲間づくり」「地域づくり」の充実・深化を図る。
内容	重点テーマ：「知ろう、学ぼう、そして楽しもう！～外国にルーツを持つ子供達の背景・実態・支援～」に基づき、これまでの成果と課題を検証し、活動の原点を再確認する事業の展開。 ①国際交流・理解ワークショップ「学習会（ベトナム難民のこれまで、いま、これから）」 ②国際交流・理解ワークショップ「ぶっちゃけトークひろば」 ③（外国人青少年のキャリア支援）「姫路の企業訪問」 ④ 地域社会と交流・連携「多文化で秋まつり～お国自慢屋台でエンジョイ～」 ⑤ 地域社会と交流・連携「ふるさと姫路再発見～姫路城探検クイズラリー～」 重要となる鍵は地域及び学校・関係機関・団体等との連携の深化はもちろん、外国人の高・大学生及び保護者の主体的な関わりを促す「リーダー育成」である。
事業経過	コロナが第5類に移行して以来、9回のスタッフ会議や5つの事業の展開がスムーズであった。天候にも恵まれ、有意義な活動ができた。
事業の効果	当会の活動10年目に向けて、持続可能な取組を構築するために事業の見直し・改善及び内容の精選をした。特に、今回は活動の原点であるベトナム難民の「これまで」「これから」について当事者から直接に話を聞いたり、外国人青少年の「いま」の夢と現実について生の声を聴いたりする取組に大きな成果があった。また、活動9年間の成果が新聞で報道され、多文化共生の地域づくりに向けた地域住民の意識の醸成が図れた。
今後の展望	今後とも市の施策「多文化共生社会の実現」「国際交流の促進」に基づいて、①外国人の地域づくりの参画促進 ②外国人リーダーの人材育成」に重点化し、文化国際課（国際交流センター）と協働し、多文化共生都市「姫路」の実現に向けた活動の充実と深化を図っていきたい。

【実施団体の事業総括・感想等】

<p>今年度、当会の取組が9年目であり、地域や参加者にとって恒例の行事として定着してきた。一方、当会の活動の原点を再確認すると共にマンネリ化を防ぐために、事業内容の見直し・改善を図ることができた。</p> <p>また、地域や各支援団体等との連携や青少年リーダー育成に成果があり、事業内容の充実・深化が図れた。</p>
--

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>多文化共生社会の実現に向けて、継続的に活動している市内では数少ない団体であり、とくに外国にルーツを持つ子どもたちの支援に向けて長い実績を持ち、その活動は貴重である。</p> <p>今回も、子どもたちの内面にまで着目した支援を行い、また地域交流の活性化を試みるなど様々な活動を行ったが、その成果は高く評価できる。</p> <p>今後も、活動継続に向けて所管課として支援していきたい。</p>
